



十三夜のお月見です 大徳寺聚光院観月茶会

月を愛でる秋の行事。ひとつは中国伝来の十五夜、もうひとつは日本古来の十三夜。ふたつ合わせて二夜の月と呼ばれ、どちらかひとつだけ見るのは片見月と言って、いささか縁起が悪いというお話しも。今年の十五夜は十月六日、十三夜は十一月二日になります。今回の案内は、この十三夜の月を愛でる企画。会場を千利休の菩提寺である茶の湯の聖地・大徳寺聚光院に設け、月見の茶会として開催いたします。聚光院は利休が自らが選んだ菩提寺であり、茶道三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）歴代の墓所でもあります。利休作と伝えられている方丈庭園は、聚光院庭園として国の名勝に指定され、ふたつある茶席「閑隠席」と「桧床席」はいずれも国の重要文化財に指定される、世界中の茶人が憧れてやまない茶の湯の空間であります。本企画は、常は非公開であるこの聖地を独占して、十三夜の月を主題に茶の湯の宇宙をご体感いただき、至高のひとつときにご案内役としてお招きする茶人は武者小路千家官休庵家元教授であるト深庵（ぼくしんあん）七代木津宗詮櫻齋師。斯界を代表する茶人ではあります。この和塾ですが、ご参加者の茶道のご経験は不問。初めての方でも存分にお楽しみいただけます。

千住博の襖絵に囲まれた書院では名店の出仕事でご用意する点心をお楽しみいただき、本堂方丈や庭園も独占鑑賞。狩野派の四代永徳と三代松栄が描いた本堂障壁画も心ゆくまでご覧いただけます。茶席の後半には、天候にもよりますが、方丈から十三夜の名月をご覧いただけるかと。すべてが特別な十三夜月見の茶会。十月六日の十五夜はご自宅でご覧いただき、十三夜は京都の古刹でお楽しみください。

○日時 令和7年11月2日（日）15時00分より～20時30分頃終宴予定

○会場 京都・大徳寺 聚光院〔京都市北区紫野大徳寺町〕

○次第 15時00分・聚光院にて受付開始～15時30分・本堂襖絵および庭園案内付き拝観～茶室『閑隠席』『桧床席』にて設え拝見とお茶席体験～18時00分頃・書院にて茶懐石の夕餉（京都の名店出張）～庭園縁側より十三夜観月～20時30分頃・終宴～現地にて解散

○定員 20名〔参加定員は変更になる場合があります。最少催行人数12名〕

○参加費 150,000円〔おひとりさま・大徳寺聚光院案内付き貸切拝観/茶席体験/茶懐石の夕食/お土産〕

※ご夕食時のお飲み物代は個別精算にて別途頂戴いたします。